

| | | |
|---|---|---|
| <h2>1. 策定の目的・対象期間</h2> | <h2>4. 経営強化プラン</h2> | <h2>5. 具体的な取り組み</h2> |
| <p>■ 策定の目的 基本理念である「創意に富み 思いやりのある「信頼される病院」をめざして」、質の高い医療と地域を守る持続可能な地域医療提供体制の構築を目指す。</p> | <p>(1) 役割・機能の最適化と連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域医療構想等を踏まえた果たすべき役割・機能 <ul style="list-style-type: none"> ・がん医療、小児・周産期医療、救急医療、糖尿病等の生活習慣病、災害時医療について地域の拠点病院としての役割を担う。 ・病床数の見直しは行わない。 ■ 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能 <ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院として医療機関との連携を強化し、救急患者の適切な受け入れ及び患者様の状態に応じた適切な退院支援を推進。 ■ 機能分化・連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・病診連携・病病連携を推進することで地域の医療機関との連携を強化。 <p>(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 医師・看護師等の医療従事者の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・【医師】 関連大学との連携により、医師の採用を強化。 ・【看護師等】 実習・助産師学生の受入および採用説明会等を実施。 ■ 医師の働き方改革への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・タスクシェア・タスクシフトや DX 推進により業務効率化、安全性の向上等を推進。 | <p>① がん医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 大阪府がん診療拠点病院の機能維持 ✓ 高度がん治療の提供 ✓ 外来化学療法強化 ✓ 入院化学療法の提供を継続 <p>② 周産期医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 小児・周産期医療の体制維持 ✓ 研修施設としての機能維持 ✓ 幅広い小児疾患への対応 ✓ 地域医療機関との連携によるハイリスク分娩への対応 <p>③ 救急医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一次・二次救急の適切な受入 ✓ 救急患者に対するスムーズな入院加療 ✓ 救急患者の受入体制強化 ✓ 救急医の確保 <p>④ 災害時医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 市災害医療センターの役割維持 ✓ 地域の医療機関との綿密な連携 ✓ 行政からの要請に応じた弾力的な医療提供体制の確保 <p>⑤ デジタル化その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ RPA や外部ツールを活用した業務の効率化 ✓ 生活習慣病を地域全体で加療する仕組みと考え方の発信 ✓ 地域のニーズを考慮した医療機器等の購入と設備の最適化 |
| <h2>2. 当院の概要</h2> | <p>(3) 経営形態の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院事業管理者の権限により公営企業としての独立性強化と効率的かつ効果的な病院経営を実現できることを踏まえて、現状の地方公営企業法「全部適用」による経営形態を継続。 <p>(4) 新興感染症の拡大時等に備えた平時からの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対応で培ったノウハウを活かし、新興感染症の拡大時に備え、行政からの要請に応じて弾力的にベッド確保ができる体制を構築。 <p>(5) 施設・設備の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設・設備の適正管理と整備費の抑制 ・計画的な更新・導入を行い、質の高い高度医療の維持に努める。 <p>■ デジタル化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化、更に DX を通じて業務負担を軽減。各種情報システムや SNS 等を活用して業務の効率化および患者への情報発信を強化。 | <h2>6. 点検・評価・公表・対象期間</h2> |
| <p>■ 診療科目 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科</p> <p>■ 病床数 高度急性期 99 床（うち ICU 4 床）、急性期 265 床</p> | <p>(6) 経営の効率化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 主な医療機能等指標に係る目標値 <ul style="list-style-type: none"> ・手術件数、分娩件数、紹介率・逆紹介率 ■ 主な経営指標に係る目標値 <ul style="list-style-type: none"> ・経常収支比率、入院患者数、入院診療単価、外来患者数、外来診療単価、病床利用率、職員給与費比率、材料費比率、等 | <ul style="list-style-type: none"> ・本プランで設定した各項目は、毎年度進捗管理の中で点検・評価を行う。なお、評価結果は当院のホームページに公表する。 ・令和 6（2024）年度から令和 9（2027）年度までの 4 年間 |
| <h2>3. 現状分析</h2> <p>【将来的な人口の推移・将来的な患者数の見込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2045 年に向けて人口は減少傾向。高齢化率は 11.5% 上昇の見込み。 ・医療需要は 2030 年以降横ばいだが、非急性期患者のニーズが増加。 <p>【当院の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医業収支はコロナの影響により悪化。 ・コロナをきっかけとした病床稼働率の低下が現在も続いている。 | | |